

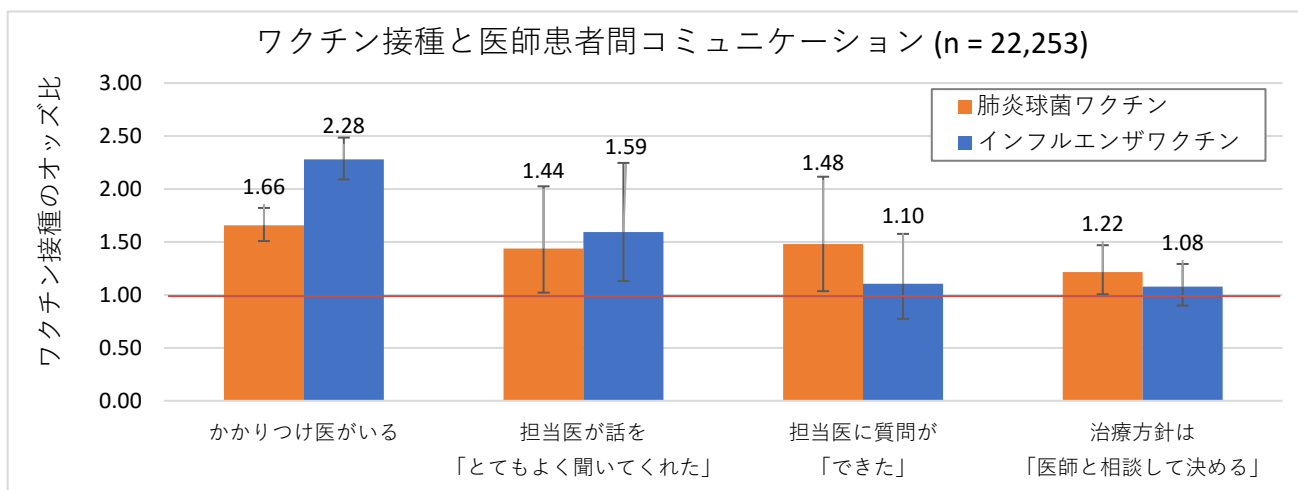
## 新型コロナワクチンへの示唆 高齢者のワクチン接種 カギはかかりつけ医 ～かかりつけ医がいるとワクチン接種率は約2倍～

65歳以上の高齢者に対する肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチンが定期接種化されましたが、その接種率は必ずしも高くありません。接種率を向上させるヒントを得るため、かかりつけ医の有無や医師・患者間コミュニケーションの質との関連を調べました。

調査は、2016年に要介護認定を受けていない65歳以上の22,253名を対象に行われました。分析の結果、かかりつけ医がいる高齢者は、いない人に比べて肺炎球菌ワクチンやインフルエンザワクチンの接種率が約2倍高いことが明らかになりました。このほか、医師が患者の話聞く姿勢や、患者がわからないことを医師に質問できること、治療方針を医師と患者が相談して決めるスタイルも、肺炎球菌ワクチンの接種率の上昇と関連していました。

高齢者のワクチン接種は、かかりつけ医の存在や医師との良質なコミュニケーションが関連しており、今後始まる新型コロナウイルスワクチンの高齢者の優先接種においても、接種率の向上のために今回の知見が役立てられることが期待されます。

お問合せ先： 京都大学大学院医学研究科 研究員 佐藤 豪竜 [sato.koryu.8i@kyoto-u.ac.jp](mailto:sato.koryu.8i@kyoto-u.ac.jp)



注1) グラフは、かかりつけ医が「いる」と回答した人に対して「いない」と回答した人、担当医が話を「とてもよく聞いてくれた」と回答した人に対して「ほとんど聞いてくれなかった」と回答した人、担当医に質問が「できた」と回答した人に対して「まったくできなかった」と回答した人、治療方針は「医師の説明を聞いたうえで医師と相談して決める」と回答した人に対して「わからない」と回答した人のワクチン接種のオッズ比をそれぞれ表している。ひげは95%信頼区間(同じ研究を100回行った場合に、95回の値が分布すると思われる範囲。一般的に、95%信頼区間が1をまたぐ場合は、統計的な有意差がないとされている。)

注2) 性別、年齢、教育年数、婚姻状況、就業状況、世帯所得、生活保護受給、既往症、過去1か月の医療費の自己負担額、手段的日常生活動作、うつ症状、主観的健康度、喫煙状況、ソーシャルキャピタル、かかりつけ医の有無を調整している。

## ■背景

日本では、65歳以上の高齢者に対して肺炎球菌ワクチンが2014年から、インフルエンザワクチンが2001年から定期接種化されましたが、その接種率はそれぞれ35.0%、48.2%と必ずしも高くありません。先行研究では、医師と患者間の良質なコミュニケーションが、子宮頸がんワクチンやマンモグラフィ、大腸がん検診等の予防的ケアの受診率を高めることが示唆されてきましたが、高齢者の予防接種に関する研究はほとんどありませんでした。このため、かかりつけ医の有無や医師・患者間コミュニケーションの質が、肺炎球菌ワクチン及びインフルエンザワクチンの接種と関連しているかどうか調べました。

## ■対象と方法

本研究は、日本老年学的評価研究プロジェクト(JAGES)が実施した調査データを用いました。調査は2016年10月から2017年1月にかけて、全国39の市町村に住む要介護認定を受けていない65歳以上の22,253名を対象に行われました。解析には、マルチレベルロジット分析を使用しました。

## ■結果

参加者のうち、過去5年間に肺炎球菌の予防接種をした人は40.0%、過去1年間にインフルエンザの予防接種をした人は58.8%でした。かかりつけ医が「いる」と答えた人は、「いない」と答えた人に対して、肺炎球菌の予防接種を受けたオッズ比は1.66倍、インフルエンザの予防接種を受けたオッズ比は2.28倍でした。また、担当医が話を「とてもよく聞いてくれた」と答えた人は、「ほとんど聞いてくれなかった」と答えた人に対し、肺炎球菌及びインフルエンザの予防接種を受けたオッズ比が高いことが明らかになりました。さらに、患者がわからないことを医師に質問できることや、治療方針を医師と患者が相談して決めるスタイル(shared decision making)も、肺炎球菌ワクチンの接種率の上昇と関連していました。

## ■結論

かかりつけ医を普及させることや、医師・患者間のコミュニケーションの質を向上させることで、高齢者のワクチンの接種率を高める可能性があることが示唆されました。

## ■本研究の意義

本研究で得られた知見は、すでに定期接種化された肺炎球菌ワクチンやインフルエンザワクチンの接種率向上に資するとともに、今後始まる新型コロナウイルスワクチンの高齢者の優先接種においても、その普及のために有用であると考えています。

## ■発表論文

Sato K, Kondo N, Murata C, Shobugawa Y, Saito K, Kondo K. Association of pneumococcal and influenza vaccination with patient-physician communication in older adults: A nationwide cross-sectional study from the JAGES 2016. *Journal of Epidemiology*. 32(4). Epub 2021 (in press).

## ■謝辞

本研究は、日本学術振興会科学研究費(15H01972、20K18931)、厚生労働科学研究費補助金(H28-長寿-一般 002)、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(JP17dk0110017, JP18dk0110027, JP18ls0110002, JP18le0110009)、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター長寿医療研究開発費(29-42)などの助成を受けて実施しました。記して深謝します。なお、本研究の結果は、厚生労働省その他の著者が所属する機関の見解を代表するものではないことを申し添えます。